

令和 8 年 7 月教育委員会定例会 議事録

日時 令和 8 年 7 月 2 1 日（火）

場所 県庁行政棟 7 階「教育委員会室」

令和 8 年 7 月 教育委員会定例会 議事録

開 催 日 時	令和8年7月21日（火） 15時45分
開 催 場 所	長崎県庁行政棟 教育委員会室
出 席 委 員	前川教育長、本田委員、嶋崎委員、芹野委員、松山委員、郷野委員
出 席 職 員	狩野教育政策監、坂口教育次長、井手教育政策課長、松尾義務教育課長、岩坪高校教育課長
開 会	（前川教育長） それでは、ただいまから7月定例会を開催いたします。 ご報告いたします。規則により、XXXXXXXXXXさん他1名の傍聴を許可いたしております。傍聴人にあつては、発言、私語、談笑、拍手等も禁止されておりますので、よろしくお願いいたします。 では本日の議事録署名委員を、指名させていただきます。 議事録署名委員は本田委員、郷野委員の両委員にお願いいたします。
前回議事録承認	次に、6月定例会の議事録は、事前に各委員に送付させていただいておりますが、承認ということによろしいでしょうか。 「異議なし」と呼ぶ者あり （前川教育長） ありがとうございます。 ご異議ないようですので、前回の議事録は承認することにいたします。それでは、委員ご署名をお願いいたします。 本日提案されている議題等のうち、冊子2、冊子3につきましては、教育委員会の会議の非公開に関する運用規程により非公開として協議を行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。 「異議なし」と呼ぶ者あり
教 育 長 報 告	（前川教育長） ご異議ないようですのでそのように進めて参ります。 冊子の審議の前に、私から報告をさせていただきます。 教育長報告資料の1ページをご覧ください。 「長崎県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則」で、臨時代理により処理しました6月定例県議会に提出された議案に対する教育委員会の意見についてであります。

質 疑	6月15日に開会しました令和8年6月定例会に上程された議案の中の、教育委員会関係の議案については、お配りしております教育長報告資料1ページにありますとおり、6月8日付けで、知事から議案の作成に対する意見を求められ、資料1ページのとおり臨時代理により、特に意見はない旨回答をいたしました。 議案の内容につきましては、令和8年度6月補正予算、職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び市町村立学校県費負担教職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例のうち関係部分、令和7年度補正予算の知事専決事項報告にかかるものであり、3～10ページに参考として、資料を付けております。 以上で私からの報告を終わります。 ただいまの説明について、ご質問等ございますでしょうか。
冊 子	――― な し ―――
1 報告事項（1）	（前川教育長） それでは定例教育委員会1の冊子について審議をいたします。まず、報告事項（1）について説明をお願いします。 （松尾義務教育課長） 冊子1の1ページ、報告事項（1）「令和8年度長崎県学力調査の結果の概要について」報告いたします。 「1 調査目的」は記載のとおりです。 「2 調査実施期間・内容」に示すとおり、4月23日（木）に小学校5年生、中学校2年生を対象として国語、算数・数学を実施しました。 「3 調査実施校数及び児童・生徒数」は記載のとおりです。 ここからは、別冊資料「令和8年度長崎県学力調査結果の概要」を用いてご説明いたします。 資料2ページ「Ⅱ 結果の概要」をご覧ください。 「1 出題の考え方」に記載しておりますように、本調査は、学習指導要領が示す学力像の実現を目指し、授業で育成すべき資質・能力に着目するとともに、過年度の課題の改善状況を検証する観点から出題しております。なお、資料には記載しておりませんが、問題作成に当たっては、県内の小・中学校教員及び大学関係者の協力を得て、県教育委員会において最終的に作成しております。 また、4つ目の○にありますように、平均正答率の目標値を60%としております。 本年度の平均正答率は「2 県全体の平均正答率」に記載のとおりです。 小学校算数は目標値を上回りましたが、小学校国語、中学校国語・数学は目標値に至りませんでした。 今月末に公表される、本年度の全国学力・学習状況調査の結果と

重ねて、さらに分析を進めていきたいと考えております。

3 ページには、令和7年度、つまり昨年度設定した本県の重点課題についての関連問題とその結果について掲載しております。右から二列目の「県」の平均正答率の欄をご覧くださいればお分かりのとおり、引き続き改善へ向けて努力を要する課題が存在するといった状況です。

なお、これらの課題についての改善状況や今後へ向けて求められる取組を掲載した資料を、次の4 ページから11 ページまで掲載しております。これらは各学校において、自校の児童生徒の状況を確認しつつ、先生方に自身の授業を振り返る際の資料として作成しています。

後ほど、ご紹介させていただきます。

次に、資料12 ページをお開きください。このページには小学校国語の設問ごとの正答率を掲載しております。以降、13 ページから小学校算数、中学校国語、数学の順に、設問ごとの正答率の状況を掲載しています。

最終16 ページ（各市町）をご覧ください。このページには、各市町の状況を掲載しております。県平均正答率以上の場合は「+」表示する形で整理しております。

それではここで、3 つほど、どのような問題が出題されていて、正答率はどのような状況なのかということを確認していただきたいと思います。

まずは小学校国語の付箋がついたページをお開きください。

この問題（2二）は、令和7年度重点課題に関する問題です。「インターネットと健康の関係」についてみんなに報告する文章を書いているという問題設定で、山内さんの考えに対する理由を条件に合わせて書く問題です。正答率は26.6%でした。提示された条件に応じて、考えの理由や事例となる情報を選択・判断し適切に表現する力に課題があると考えられます。

改善にあたっては、授業場面において、例えば、「考えのみ書かれた文章」と「考えとその理由や事例が書かれた文章」を比較する機会を設けるなどして、理由や事例の必要性を実感させることが大切です。そのことが、理由や事例を明確にしながら自分の考えや意見を表現することにつながるということを、結果の概要で示しています。

次に、小学校算数の付箋がついたページをお開きください。この問題（4）は、重点課題「割合」に関する問題で、さつまいもの収穫量に関する問題です。①は、問題場面や図をもとにして「もとにする量」がどちらかを判断する問題であり、正答率は36.9%でした。②は、倍を求める式を書く問題で正答率は55.2%でした。過去の同趣旨問題と比べても、「割合の意味の理解」や「図が何を表しているのか捉えること」について、依然として課題となっています。

質 疑	指導に当たっては、割合という二つの量の関係をつかむために、常に問題場面と図、式を関係付けながら確認する習慣を身に付けさせることが重要です。特に「もとにする量」にあたる「1倍」は、問題文に明確に示されないことが多いため、「～は…の何倍」などの言葉と図を丁寧に結び付ける活動を、低学年から系統的に積み重ねていくことが大切であることを、結果の概要で示しています。 最後に、中学校数学の付箋がついたページをお開きください。 この問題（8）（2））令和7年度重点課題「問題解決の方法を説明する」に関する問題で、バスの走行距離と運賃の関係を比例とみなして解決する問題です。正答率は27.6%でした。課題解決の方法を適切な言葉で説明することに課題があるだけではなく、無答率が34.6%であることから一定数の生徒は問題解決そのものにつまずいているとも考えられます。 そのため、説明する場面において数学の用語を使った表現を意識させることはもちろんですが、問題解決の見通しをもたせるために、表やグラフなど、問題の中にある情報に注目できるようにするなど、丁寧な手立てが必要であることを、結果の概要で示しています。 今回の調査結果から見えた課題については、8月に4か所にて、授業改善研修会を開催し、長崎県の重点課題やその具体的な改善内容を共有します。また、この研修会の動画をオンデマンド配信し、すべての市町で課題改善に取り組みます。 なお、結果の公表は、6月22日（月）にしております。 以上、報告いたします。 （前川教育長） ただいまの報告について、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。 （本田委員） 算数と数学で共通しているものがあると思います。いわゆるグラフとか図から判断していく、情報処理能力リテラシーという分野で、解決をすとした時に、中学生で出てきているグラフを書けない、あるいは判断ができないというのは、多分遡ってみると、小学校時代のところに要因があるのではないかと推測できることだと思います。一つは読解力の一端だという風に昔から考えていたんですね。課題解決のための先生方の研修会の内容というのはどのようにお考えでしょうか。 （松尾義務教育課長） ご質問ありがとうございます。先ほど言われたとおり、算数、数学につきましては、一定同じ課題がございます。例えば、分数であったりとか、先ほどありましたグラフにつきましては、実は小学校
------------	--

算数の折れ線グラフと棒グラフの複合グラフのところについても課題が見えているところでございます。比例につきましても、中学校の課題で挙げておりますが、小学校6年生で学習する内容でもございますので、やはり小学校での学びと中学校での学びを関連付けさせるということが大事なのではないかと考えているところでございます。

先ほど申しました授業改善研修会については、オンデマンド配信をさせていただきますので、小学校の先生でも中学校の先生でも、どちらも見ていただけるような機会ではないかなと思っておりますし、内容につきましても、やはり、中学校を意識した小学校、小学校の学びを意識した中学校の学びについて、考えてまいりたいと思っております。

(本田委員)

ありがとうございます。

(前川教育長)

他にご意見ございませんでしょうか。

(芹野委員)

最近よく探究学習という言葉を使うと思いますが、主に高校生に使われているかもしれませんが、小学校、中学校から探究について、何かしらのきっかけづくりや学びが必要とされているのかなと思うのですが、試験問題の中には、そういったものが少しは含まれているのでしょうか。もしくは、含まれていくことになるのでしょうか。

(松尾義務教育課長)

小中学校におきましても、総合的な学習の時間に探究的な学びをしているところでございます。私たちがいわゆる教科で学ばせた、知識・技能的なところを探究的な学びで活用をさせるということを意識することが大事ではないかと思っています。

先ほどグラフのところに課題があると言いましたが、そのグラフを探究的な学びの時に、自分たちで調べたものをグラフで表すとか、やはり教科で学んだものを総合的な学習の時間等で発揮をしていくということが大事ではないかなと考えているところです。

(芹野委員)

ありがとうございます。

(前川教育長)

他にいかがでしょうか。

報告事項（２）	----- な し ----- （前川教育長） よろしかったでしょうか。それでは、ご質問等なければ、続いて、報告事項（２）について説明をお願いいたします。 （松尾義務教育課長） 冊子１、２ページ報告事項（２）「令和７年度英語教育実施状況調査(文部科学省)の結果について」ご報告します。 本調査は、英語教育改善のための具体的な施策の現状について調査するとともに、国の施策並びに各教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てることを目的としております。令和８年２月１日を実施基準日として、全国各都道府県・市区町村教育委員会及びすべての公立小・中・高等学校等を対象として実施されました。令和８年６月１８日（木）に文部科学省が公表した結果について、本県の中学校、高等学校の結果をご報告いたします。 結果の概要について、まずは中学校から説明してまいります。 ①中学生３年生についてです。本調査において、ＣＥＦＲ Ａ１レベル（英検３級）相当以上の英語力を取得または有すると思われる中学３年生の割合は、４９．１％でありました。これは、令和６年度調査を１．９ポイント上回る結果です。一方、全国平均との差は、令和６年度が－５．２ポイントであったのに対し、令和７年度は－５．５ポイントとなっております。 なお、英検やＴＯＥＩＣなどを受験した者以外、すなわち実際に受験していないものの、ＣＥＦＲ Ａ１相当以上の英語力を有すると考えられる者については、県学力調査問題の正答状況や学校の成績等を基に、英語科担当教員が判断したものです。 今回の結果によれば、ＣＥＦＲ Ａ１レベル（英検３級）相当以上の本県中学校３年生の割合は、全国と比較して著しく低い状態ではないものと捉えております。 ②英語担当教師、教員の英語力についてです。本調査において、ＣＥＦＲ Ｂ２レベル（英検準１級）相当以上を取得した英語担当教師の割合は、令和６年度調査を９．４ポイント上回る４９．６％でありました。また、全国比においては、令和６年度調査は、全国比－６．０ポイントであったのに対し令和７年度は全国比－９．０ポイントとなっております。 この結果につきまして、着実に取得率は向上していますが、教員の多忙な日常業務により自己研鑽の時間が十分に確保できていないことが取得率５０％に満たない要因の一つと考えられます。働き方改革の視点を持ちながら、教員採用試験における加点制度の継続や各種検定試験の特別受験制度の活用をさらに働きかける取組を通して、ＣＥＦＲ Ｂ２相当の英語力を有する教員の増加を図る必要があると捉えております。
----------------	---

質 疑	(岩坪高校教育課長) 引き続き、高等学校の調査結果についてご報告をいたします。3ページ(2)高等学校をご覧ください。 ①高校3年生についてです。CEFR A2レベル(英検準2級等)相当以上の英語力を取得または同程度の英語力を有すると思われる本県の高校3年生の割合は42.2%で、昨年同期と比較し2.5ポイントの減少となり、全国の平均52.4%に対しては-10.2ポイントとなりました。 CEFR B1レベル(英検2級等)相当以上の英語力を取得または同程度の英語力を有すると思われる本県の高校3年生の割合は17.7%で、昨年同期と比較し0.7ポイントの減少となり、全国の平均23.9%に対しては-6.2ポイントとなりました。 次に英語担当教師についてです。 CEFR B2レベル(英検準1級等)相当以上を取得した英語担当教師の割合は89.0%で、昨年同期と比較し2.8ポイントの増加となり、全国の平均84.9%を+4.1ポイント上回りました。 CEFR C1レベル(英検1級等)相当以上を取得した英語担当教師の割合は29.5%で、昨年同期と比較し10.2ポイントの増加となり、全国の平均25.8%に対しては+3.7ポイントとなりました。 結果の考察といたしましては、CEFR B2、C1レベルを取得している教員については、昨年度よりも割合は高まりましたが、生徒の英語力の伸びに十分繋がっていないという状況になります。要因の一つとして、授業を英語で行う教員の割合が全国よりも低いという状況も挙げられています。学校が小規模化する中、研修等を通じて、教員が授業力を高め、生徒の英語に対する学習意欲や資格取得に向けた意欲を高めていく必要があると考えております。報告は以上です。 (前川教育長) ただいまの報告に対するご質問・ご意見はございませんか。 (本田委員) 高校の生徒の状況ですね、教員の状況とのギャップですね、やはり全て英語で行う授業をするということだけではないような気がしているのですが、他の要因は何か考えられることありませんか。教員を採用する時に、確かにCEFR B2、TOEIC785点以上を取っている先生たちが採用されつつあると、伸びてくるというのは分かるんですね、ただ授業力のところというか、本当に英語だけなのかなとちょっと考えたところもあるのですが、その辺はいかがでしょうか。
------------	---

(岩坪高校教育課長)

今、委員からご指摘がありましたように、高校生の英語力が伸び悩んでいる要因としてですが、確かに教員の英語力だけではなく、様々な要因があると考えられるのかなというふうに思っております。その一つとしては、やはり学校が小規模化していつていることによって、なかなか生徒も教員も切磋琢磨する機会が少なくなってきたということが挙げられるのかなと思っております。特に教員については、周りの授業力の高い、先輩の教師がいるかないかというところは非常に大きいなと思っております、そういう意味では各学校にですね、新任教員がたくさん採用されている状況ですので、県全体で教員の授業力を高める機会を検討していく必要があると考えております。

(前川教育長)

他にいかがでしょうか。

(芹野委員)

ぜひ、国際都市という長崎のイメージからすれば、英語は少し全国平均を上回りたいのかなというところが本音でありますけれども、全国平均ということは、全国で良いところは何%くらいになるのか数字を教えてくださいませんか。

(松尾義務教育課長)

中学校の生徒の英語力につきましては、福井県が84.6%、さいたま市が88.9%、この二つが高いのではないかと考えております。

(芹野委員)

ありがとうございます。

(前川教育長)

他にいかがでしょうか。

――― な し ―――

(前川教育長)

ではご意見ないようでありましたら、以上で報告事項を終了いたします。

次の議案審議から非公開で行いますので、傍聴人の方及び報道関係の方は、恐縮ですが、ご退席をお願いいたします。

冊 議	子	2 題	(別紙議事録)
冊 議	子	3 題	(別紙議事録)
			17時10分、本日の会議を終了